

「釧路湿原自然再生協議会」

第 15 回 旧 川 復 元 小 委 員 会

資 料

平成 2 4 年 1 1 月 2 7 日

釧路湿原自然再生協議会運営事務局

釧路湿原自然再生協議会

－ 第 15 回 「旧川復元小委員会」 －

日時：平成 24 年 11 月 27 日（火） 13：30～15：00

場所：標茶町コンベンションホール

議 事 次 第

1. 開 会
2. 第 6 期旧川復元小委員会の委員長及び委員長代理の選出
3. 議 事
 - 1) 平成 24 年度モニタリング調査結果について
 - 2) 旧川復元に向けた調査について
4. その他
5. 閉 会

配 付 資 料

- ・ 第 15 回 旧川復元小委員会資料
- ・ 第 15 回 旧川復元小委員会
- ・ 出席者名簿
- ・ 座席表
- ・ 第 14 回 旧川復元小委員会ニュースレター

釧路湿原自然再生協議会
旧川復元小委員会 委員名簿

計：35名

■個人(14名) (敬称略、五十音順)

No	氏名	所属
1	亀山 哲	国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター 生態系機能評価研究室 主任研究員
2	神田 房行	北海道教育大学 教授
3	櫻井 一隆	
4	清水 康行	北海道大学大学院 工学研究院 環境フィールド工学部門 水工・水文学研究室 教授
5	新庄 興	
6	杉山 伸一	環境カウンセラー(市民部門)
7	杉澤 拓男	
8	中村 太士	北海道大学大学院 農学研究院 教授
9	早川 博	北見工業大学 社会環境工学科
10	針生 勤	釧路市立博物館 学芸主幹
11	日野 貴	
12	松本 文雄	
13	矢吹 哲夫	酪農学園大学 環境システム学部生命環境学科 教授
※ 14	渡部 幹雄	

■団体(15名) (敬称略、五十音順)

No	団体/機関名	代表者名
1	釧路川カーネットワーク	会長 小川 清史
2	釧路市漁業協同組合	代表理事組合長 戸田 晃
3	釧路自然保護協会	会長 神田 房行
4	釧路湿原国立公園 ボランティアレンジャーの会	代表幹事 鈴木 久枝
5	釧路シャケの会	会長 小杉 和寛
6	釧路水産用水汚濁防止対策協議会	会長 柳谷 法司
7	公益財団法人 日本生態系協会	会長 池谷 奉文
※ 8	公益財団法人 北海道環境財団	理事長 辻井 達一
9	さっぽろ自然調査館	代表 渡辺 修
10	塘路ネイチャーセンター	センター長 鷺見 祐将
11	特定非営利活動法人 鶴居タンチョウ元亀村	理事 佐藤 吉人
12	特定非営利活動法人 タンチョウ保護研究グループ	理事長 百瀬 邦和
13	特定非営利活動法人 トラストサルン釧路	理事長 黒澤 信道
14	北海道プロフェッショナル フィッシングガイド協会	会長 テディ 齋藤
15	標茶西地区農地・水保全隊	隊長 佐久間 三男

■オブザーバー(3団体) (敬称略)

No	団体/機関名	代表者名
1	社団法人 十勝釧路管内 さけます増殖事業協会	会長 亀田 元教
2	標茶町農業協同組合	代表理事組合長 高取 剛
3	釧路丹頂農業協同組合	代表理事組合長 瀧澤 義一

■関係行政機関(3機関) (敬称略)

No	団体/機関名	代表者名
1	国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部	部長 岡部 和憲
2	環境省 釧路自然環境事務所	所長 西山 理行
3	標茶町	町長 池田 裕二

※第6期(前期)新規登録

— 旧川復元計画に関するこれまでの検討経過 —



第 14 回 旧川復元小委員会の課題（発言概要）と今後の対応方針（案）

項目	課題（発言概要）	今後の対応方針（案）
モニタリング調査結果について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 貴重種は生育適地を探して移植を行ったが、今回のような結果(移植後の個体数の減少)だった。今回の教訓を活かし、今後の再生事業を進めてもらいたい。 ・ 土砂の堆積状況について、右岸側湿原での土砂堆積状況はどうだったのか。 ・ 湿原上流部の農地からの土砂が湿原へ流入し、湿原を乾燥化させている一因という話があったが、これまでの調査で、上流部の農地から湿原中心部へ、どの程度の土砂が流入しているのか把握されているのか。 ・ 出水時の五十石地点の土砂量に対して、茅沼地点では減少しており、旧川復元による効果であることが分かるが、二本松橋では増加している。二本松橋でこんなに増加しているのはなぜか。 ・ 本当に魚類の生息環境が回復しているのか知りたいので、もう少し細かいデータがあっても良いと思う。調査する場合の条件を見せていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の旧川復元事業では、今回の教訓を生かし、生育地の保全を最優先に検討します。 ・ どこまで氾濫堆積したのか確認できていません。今後、湿原部での土砂トラップ設置を検討します。 ・ 農地自体からの土砂量は調査していませんが、河川を流下している土砂は今回調査しています。 ・ 茅沼地区から二本松橋の間で、ヌマオロ川など他の支川が流入していますので、それら支川からの土砂流入が影響していると考えています。 ・ 調査の条件を資料に追加することは可能です。
5年目の施策の振り返りに	<ul style="list-style-type: none"> ・ モニタリング調査の期間設定が必要だと思う。茅沼地区以外にも、旧川復元予定箇所として 4 箇所程度挙げられていたが、次の旧川復元箇所と並行して、あるいは、茅沼地区のモニタリングは期間を定め、次の箇所のモニタリングを行っていく、ということが必要だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長期的な計画を示すことと併せて、次の河川をどのようにするのか、次回の小委員会で示すようにします。